

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

体験活動の大切さ

先週、5年生が御笠川（あいさつ通り下）で川の生き物調べをしました。実際に川に入り、どんな生き物が生息しているか調べ、地域を流れる川の状態を知ることが目的です。当日指導してくださった「まほろば自然教室」の岩熊志保先生によると、生息している生き物の種類によって川の水質等が分かるのだそうです。はじめは、恐る恐る川に入り、やみくもに網を動かしていた子どもたちですが、次第にどこに生き物が生息しているか、どうしたらうまく捕まえることができるか分かってきたようで、石を動かして川下で網を構えたり、川の中に生えている草の下を狙って網を動かしたりして上手に生き物を捕まえ始めました。付近の方々には申し訳なかったのですが、どんこやヤゴ、川エビなどを網の中に見つける度にあちこちから歓声が上がっていました。

自然や社会、人と直接関わる「直接体験」は、子どもたちにとって次のような意味があるといわれています。

- ・五感を使うことで理解が深まり、記憶に残りやすい
- ・「なぜ・どうして」と自分で考える力が育つ
- ・小さな成功体験が自己効力感や自信を高める
- ・他者との協働を通じて社会性や思いやりが育つ

実際に活動している子どもたちを見てみると、川の様子から生き物が生息している場所を推測したり、流れを利用して網の使い方を工夫したり、狙い通りに捕まえた成功体験に喜んだり、捕まえた生き物が何であるかパンフレットを参考に判断したり、班で順番・役割を決め協力しながら活動したりするなど、先に挙げたようないくつもの学びの姿が見られました。

情報が発達した現代、わざわざ直接体験をしなくても、インターネットを使えば、簡単に欲しい情報が手に入ります。しかし、そういった環境で生きている子どもたちだからこそ、「直接体験」を大切にしたいものです。失敗するかもしれないが実際にやってみることや、本物に触れることを大切にしたいと考えています。知り合いの大学の先生が、「最近の学生は、すぐに『答え』が出ないことをやりたがらない。『解がない問い』を考えさせると面倒くさがる。」とおっしゃっていました。わたしたちはスピード、効率化ばかりを追い求めてしまうようになってはいないか反省させられます。

ここ最近の本校の学習では、1年生が梅の実を収穫して梅ジュースを作ったり、2年生が夏野菜を育てたり、3年生が地域を歩いて地形や「まち」の様子を観察したり、4年生が空気鉄砲や水鉄砲で遊んだり（実験したり）、6年生が市議会や大宰府政庁跡を見学したりしていました。こういった「直接体験」は、教科書だけでは得られない大切なもの・大切なことを学ぶ貴重な機会になっています。



左) 御笠川で生き物を探す
5年生児童。右) 捕まえた
生き物が何なのか調べて
いる児童。
生き生きと学ぶ姿が印象
的でした。